

宇美町

エコトリコ

(2017年広報3月号)

今年の3月11日で東日本大震災から、はや6年が経ちました。それまでも、各自治体においては、CO₂削減策の一つとして、消費電力量の削減に取り組んできましたが、この震災で原発事故が起きたことは、消費電力量を大幅に削減することの一大転機となりました。

具体的には、震災による原発事故に伴う電力供給低下により電力危機が発生し、東北・関東地区では大規模停電につながる恐れがあったため、時間帯により地域を区切って順々に停電させる計画停電を行いました。また、契約電力500kW以上の大口企業に対して、法的に拘束力のある電力使用制限を行ったことが、企業にとってはさまざまな節電施策を実施するきっかけとなりました。そういった取り組みにより、大手企業の中には電力を3割も削減できた企業があったそうです。

最近では、震災がもたらした電力供給の危機があったことが少し薄らいできた感じもありますが、室内温度の設定見直しを始めとする節電意識の改革に、国が考えた法的拘束力が大きな影響をもたらしたと言えると思います。自分たちの意識改革で実行できたのではないか？と思うと制度で変えられたことは少し寂しいと思うのですが：

文責

福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆

